

普及活動検討会実施報告書

仙台農業改良普及センター  
実施月日：令和8年2月9日、18日  
実施場所：宮城県仙台合同庁舎ほか  
(単位：人)

1 検討内容

No	検討項目
1	プロジェクト課題について No.1 次代を担う生産者の育成による梨産地活性化 No.2 ねぎの次世代担い手育成による産地の強化 No.3 ほ場整備を契機とした営農体制の整備 No.4 水稲乾田直播栽技術の定着による大規模土地利用型経営体の基盤強化
2	令和8年度普及計画案について

2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者		生活者	1
若手・女性農業者	2	学識経験者	
市町村	5	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
プロジェクト課題 No.1 次代を担う生産者の育成による梨産地活性化	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定量的目標も達成できており、天敵ダニや早生品種の導入など活動内容が具体的でよかった。また、土づくり研修会や県外視察等、積極的な生産者との交流活動を行っていることがよくわかる発表だった。</li> <li>○新技術の提案は、既存の生産者にとっても必要なものだと思うので、産地全体への普及活動につなげてもらいたい。</li> <li>○有望な品種導入が所得向上にどうつながったか、また今後所得向上にどのようにつなげるか等の方向性があるとよいと思う。</li> <li>○今後、新規就農者が予定されている点は非常に評価できる。こちらの課題は完了課題だが、プロジェクト課題とは別に支援が必要と考えられる。</li> <li>○たくさんの研修や交流会で参加者が増えている様子は、普及センターの活動の積み重ねだと思う。部会の若手とシニア層が双方交流できる場作りを引き続きお願いしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新技術のV字ジョイント栽培では、飛躍的に収量の増加が見込まれます。将来的なV字ジョイント栽培の定着・拡大をめざし、継続して支援してまいります。天敵ダニ製剤の活用については、専門家の意見を取り入れた薬剤の散布リストを作成し、使いやすくなるように指導していきます。</li> <li>○有望な早生品種の導入は、産地に定着し、収穫できるまで数年の期間が必要なため、継続して支援し、検証していきます。</li> <li>○R7年度新規就農者2名をR8年度新規プロジェクト課題の対象者として、これからも支援してまいります。特に新技術に取り組みれるので、安定して生産できるよう関係機関と連携しながら進めてまいります。</li> <li>○今後とも若手とベテラン生産者が交流できる場の提供を引き続きJAとともに取り組んでまいります。</li> </ul>
プロジェクト課題 No.2 ねぎの次世代担い手育成による産地の強化	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ネットワーク形成による生産者の交流について、ベテラン生産者との交流により、気軽に相談できる体制が構築されるとさらなる技術向上につながると考える。</li> <li>○対象者の中で、先輩が後輩の面倒を見る動きが見えたことは大きな成果だと感じる。</li> <li>○ねぎ通信の発行やネットワーク形成等の取組が意欲的な活動成果につながっていると感じる。今後はこの取り組みをいかにして新たな担い手に発信していくかが重要ではと感じる。</li> <li>○近年の異常気象により栽培管理が難しくなる中、ねぎ通信の発行やSNSによる情報発信は若手にとって非常に役立つツールと思われる。春ねぎの試験導入についても、対象者の成功体験につなげ、栽培体系を確立できるよう期待している。</li> <li>○夏の猛暑により定量的目標の達成に至らなかった対象者がいることは残念。ネギだけでなく農作物全般について高温対策も課題として取り組む必要があると感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SNSの活用や若手農業者情報交換会開催等により対象者相互のネットワークづくりを引き続き支援してまいります。また、部会活動と連携し、ベテラン生産者との交流等、気軽に相談できる体制づくりの構築を図ってまいります。</li> <li>○近年の異常気象により栽培管理の難易度は上がっておりますが、土壌分析による適正施肥の実施、現地巡回やねぎ通信の発行等による早期の病害虫・除草対策等、適期作業の励行により栽培管理技術の向上を支援してまいります。また、夏の高温対策としても春ねぎ（初夏どり）の作型の検証は有意義であると考えておりますので、2名の試作が成功体験につながり、産地として作型の選択肢となるよう、引き続き取り組んでまいります。</li> </ul>
プロジェクト課題 No.3 ほ場整備を契機とした営農体制の整備	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほ場整備に伴う法人設立や園芸品目の導入において、法人のビジョン策定、機械導入に係る資金繰りは非常に重要な要素であるので、今後も先を見据えた指導を期待する。</li> <li>○大規模経営の課題を社員とともに整理して、課題ごとに濃密に進められて模範となる成功事例だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本課題では、法人設立当初の経営が不安定な時期を乗り越えられるよう、農地利用の効率化や高収益作物の生産、法人運営面での体制づくり等、多面的な支援を行いました。しかし、本格的な農地整備の工事は今後開始予定であり、工事期間中の耕作面積及び収入の減少が予想されるなど、経営的な課題が残っております。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後は法人が安定的に作物を生産できるよう継続的に指導し、自ら課題を計画的に解決できるよう支援していくことが課題である。</li> <li>○営農体制の確立に向けて勉強会などを複数回実施していることは評価できる一方、法人への農地集積状況やほ場整備の工事時期を鑑みると、今年度完了とするべき課題か疑問である。</li> <li>○今後はほ場整備事業を予定しているとのことだが、それに伴う経営面積の縮小や、米価の変動などもあることから、収益の減少を抑えられるよう計画的で精度の高い支援を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2年間の重点的な支援により、法人自らが考え、営農計画の作成や栽培品目の選定、資金繰りの管理等が行えるよう知識、技術を習得し始めています。今後も計画的かつ安定的に営農できるよう、高収益作物の栽培や組織運営面を中心に、引き続き伴走支援してまいります。</li> </ul>
プロジェクト課題 No.4 水稲乾田直播栽培技術の定着による大規模土地利用型経営体の基盤強化	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対象法人の取組面積が目標より大いに上回っている点について評価できる。</li> <li>○乾田直播に不適とされるようなほ場特性について、どの程度までが許容範囲であるかわかると大変参考になる。</li> <li>○現状、乾田直播の栽培面積は大規模法人を中心として面積が拡大している。今後支援するうえで、中規模の担い手でも対応し得る他県の技術情報などがあれば共有してほしい。</li> <li>○今後は大豆後作に作る品種の中で、乾田直播栽培に適した品種の試験などを期待したい。</li> <li>○乾田直播栽培は生産者にとって非常に関心が高いトピックスである。今後、支援内容をまとめた資料の作成について期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乾田直播のほ場適正については、排水性が良くかつ保水も担保できるほ場なので、極端な砂質土壌や粘土土壌は難しいと考えています。また、雑草の埋土種子量が多いほ場では雑草管理が難しくなります。それぞれの許容範囲については引続き検討してまいります。</li> <li>○乾田直播は他県でも広がり始めたところです。今後の稲作の課題として、中規模担い手の省力化も必須だと考えますので、引続き支援や手法の検討を行ってまいります。</li> <li>○大豆後作などは、まなむすめや萌えみのりなど耐倒伏性の高い品種が適しています。しかし、どの品種でも移植栽培より倒伏しにくいので、施肥量や地力次第では様々な選択肢があると考えられます。</li> <li>○作成した事例集を研修会等で活用するほか、ホームページ等でも公開していきます。</li> </ul>
令和8年度普及指導活動案について		<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後の農業を考えるうえで重要となってくる「担い手の確保・育成」、「高収益農業」、「安定供給体制の構築」等の記載がはっきりとしておりわかりやすい。また、新たな重点課題として気候変動に対応する課題がある点も評価できる。</li> <li>○「仙台都市圏の強みを活かした持続可能な農業」を実現するためには、安定生産の体制整備としっかりとした出口対策が重要に思う</li> <li>○今後は農家の高齢化により担い手が不足していくが、重点活動項目にもなっている水稲乾田直播栽培は圧倒的な省力化と労働時間の短縮、生産コストの削減が見込めるので、ぜひ手厚い支援をお願いしたい。</li> <li>○プロジェクト課題 No.4について、取組内容が他法人でも参考になるものであると良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和8年度から令和12年度までの「仙台地域普及指導方針」の中に掲げている3つの視点、スマート農業技術の導入等の革新技術の活用やトマトやイチゴなど高収益農業の展開、そしてみどりの食料システム戦略などの環境保全型農業を通じて、仙台都市圏の強みを活かした普及指導を展開してまいります。</li> <li>○農家の高齢化や人口減少など農業・農村の担い手が不足していくなか、市町村、JA等関係機関と連携、情報の共有を図り、担い手の確保・育成に取り組んでいきます。</li> <li>○水田乾田直播栽培技術などのノウハウや先進事例等は、セミナーや研修会を開催し広く周知を図るほか、普及センターだよりやホームページ等の媒体を通じて情報発信するよう取り組んでまいります。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>○プロジェクト活動の成果が多くの農業者に広まり、省力化や所得向上につながることを期待する。</li> <li>○これまでの成果を活用し続けることが重要であり、今後も普及センターの活動に期待している。</li> <li>○生産者の高齢化が進む中、若手の育成・確保は永遠の課題であり、若手が農業に魅力を感じ、農業で生計を立てられる体制とするためには、新規技術の活用支援やプロジェクト活動はますます重要である。</li> <li>○令和8年から水稲乾田直播栽培に本格的に取り組む農家が多い市町村もあるため、普及センターの支援策について指導・助言をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの普及活動の成果等については、ホームページ等で情報発信していくほか、研修会やセミナー等で活用してまいります。</li> <li>○新規就農者の個々の実情に応じて、就農相談、就農計画作成、就農準備、就農直後等の各段階において、市町村等関係機関と連携しながら、きめ細かに支援してまいります。</li> <li>○令和8年度においても、JAと連携し、普及指導計画の重点活動の中で、水田乾田直播栽培の支援を継続していきます。</li> </ul>

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する